

■講師



井上 真琴(同志社大学 学習支援・教育開発センター 事務長)
同志社大学職員として教務事務、システム開発、図書館、大学企画業務に従事。図書館ではレファレンス・サービス・選書業務、企画部門では高等教育政策調査およびラーニング・コモンズの設計・運営に携わる。学生の情報リテラシー向上を図るため、ちくま新書『図書館に訊け!』(2006 年度私立大学図書館協会賞)を刊行し、同大学社会学部嘱託講師(科目:学術情報利用教育論)を務める。

■プログラム概要

「大学図書館の整備について(審議のまとめ)」(2010.12.3)では、図書館機能として「学習支援及び教育活動への直接の関与」が、図書館員の資質・能力として「学習支援における専門性」「教育への関与における専門性」が謳われました。しかし、学習者中心の教育への転換と学習成果主義への移行が図られるなか、いったい大学図書館員は何をどのように教育・学修支援を行うべきなのでしょうか。実践にはどのような知識・スキルの開発が必要なのでしょうか。

本研修は講義中心ではありますが、教育・学修支援専門職の養成や SD 義務化の動きに留意しつつ、大学図書館員の能力開発について参加者と意見交換や課題の共有を行います。内容は、情報リテラシー教育における「情報探索のスキル指導」から「情報を使って学習成果を出す指導」への移行、ラーニング・コモンズ設置等の学習環境整備の意味、といった話題・事例が中心となります。

■準備物や事前課題

1. 以下の資料の事前読解

・井上真琴, “大学図書館の学習支援:平成 26 年度大学図書館職員長期研修講義資料”. 筑波大学附属図書館. 2014-07-08. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2014/17.pdf>, (参照 2016-05-17).

2. 下記はいずれかを読解

・今井むつみ, 学びとはなにか:〈探求人〉になるために. 岩波書店, 2016, 230p.
・今井むつみ, 野島久雄, “第5章 概念の学習”, “第8章 社会的文脈に埋め込まれた学習”. 人が学ぶということ:認知学習論からの視点. 北樹出版, 2003, 247p.

■主な受講対象

大学図書館における教育・学修支援の実践に関心のある教職員。

■本プログラムの到達目標

1. なぜ大学図書館が教育・学修支援を担うのか、その根拠を理解できる。
2. 何をどのように教育・学修支援をすればよいのか、具体的に説明できる。
3. 教育・学修支援に求められる知識・スキルについて、事例を挙げて説明できる。

■日時・会場

日時:平成28年8月24日(水)13:00~15:00

会場:愛媛大学城北キャンパス